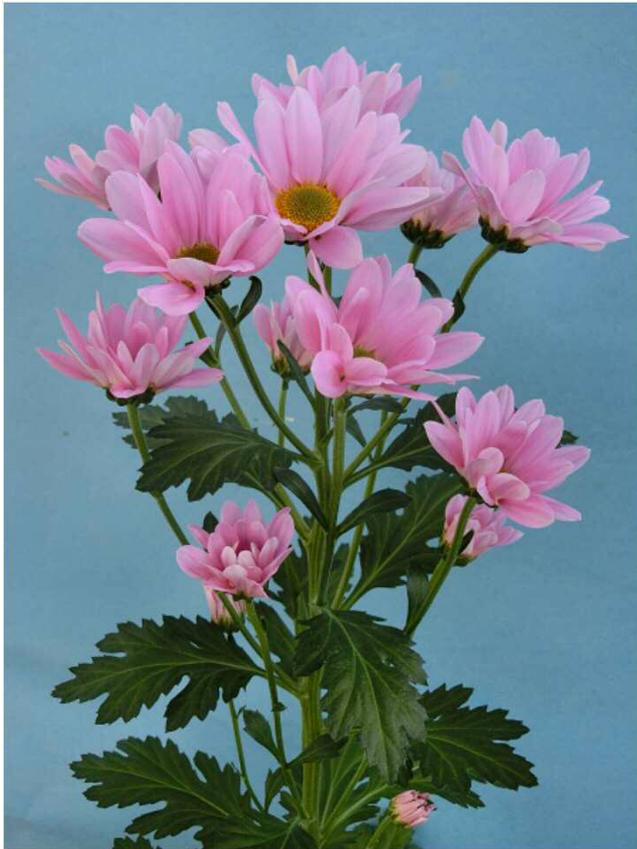


10月から6月までピンク色が美しい 秋系スプレーギク新品種を開発



「スプレー愛知秋1号」
(平成27年5月 品種登録出願公表)



ピンク色品種の10月における花色比較
左:「スプレー愛知秋1号」 右:「プリティララ」
「プリティララ」は11～5月の出荷に適する。



秋系ピンク色品種の出荷時期

長期間の出荷が可能なピンク色の秋系スプレーギク品種「スプレー愛知秋1号」を開発しました。

秋系品種は秋から翌年の初夏にかけて出荷されます。一般の品種は高温期に花色が淡くなりやすいのに対し、この品種は高温の時期も花びらがピンク色を保つため、10月から6月までの長期間にわた

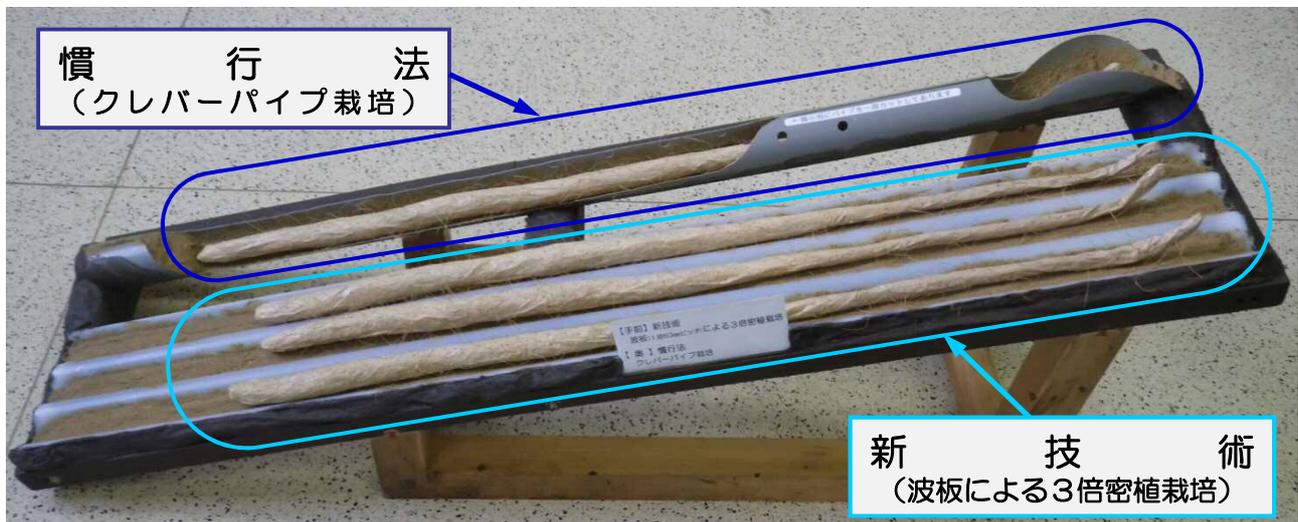
り出荷することが可能です。

また、寒い時期でも茎が良く伸びる、花びらの角度が斜め上方を保つため花の形が美しいといった特長もあります。

生産者や市場から高く評価されており、産地のブランド力強化に繋がるピンク色の主力秋系品種として期待されます。

(東三河農業研究所)

ジネンジョの省力的多収技術を開発



- ・慣行法は、1栽培容器に種芋1株を定植。1栽培容器で1本の新生芋を収穫する。
- ・新技術は、1栽培容器に種芋を3株定植。1栽培容器を掘取れば、3本の新生芋が収穫でき省力的。

	慣行法 (クレバーパイプ栽培)	新技術 (波板による3倍密植栽培)
収穫時間(分/株)	2.0	1.0 収穫時間半減
収量 (t/10a)	1.42	2.89 収量倍増
いもの断面		 より円に近い

ジネンジョは数少ない日本原産の作物です。栄養豊富で、主に「とろろ」など伝統食に利用されています。中山間地域では特産品として栽培が盛んですが、高齢化に伴い生産者数は減少し、生産量が年々低下してきています。また、単位面積あたりの収量が低く、掘取作業に多くの労力がかかります。

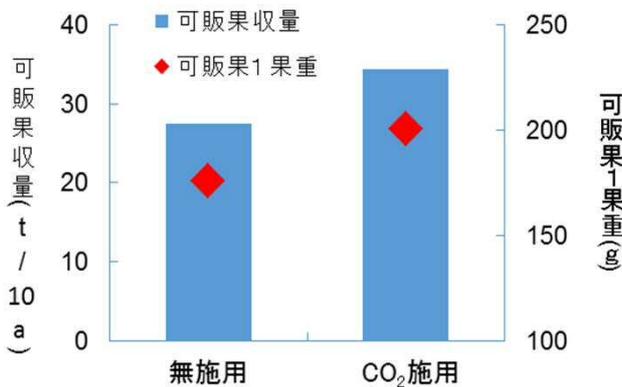
そこで、省力的に多収を実現できる栽

培技術を開発しました。この技術は、新生芋を受ける栽培容器に63mmピッチの波板を利用し、通常の3倍の栽植本数とするものです。

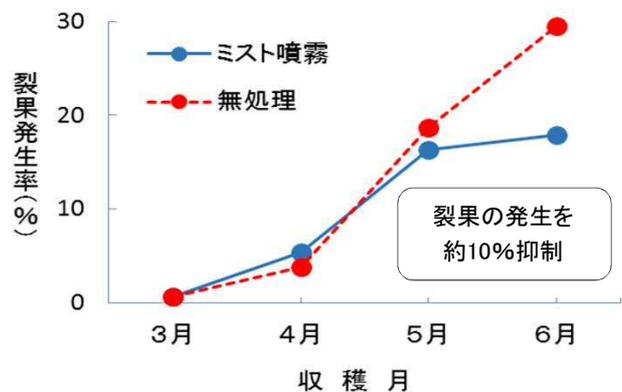
この技術を利用すると、密植のためジネンジョ1本あたりの重量はやや減少するものの収量が倍増し、断面がより円に近いものが収穫できます。このため、収穫時間が半減し、収益性が向上します。

(山間農業研究所)

炭酸ガス（CO₂）施用とミスト噴霧による 施設トマトの多収技術を開発



CO₂施用が可販果収量及び1果重に及ぼす影響
(2012～2014年度の3か年平均)



ミスト噴霧が裂果発生に及ぼす影響

トマトの促成長期作型は、秋から翌年の初夏まで栽培が行われます。冬期は果実の肥大不足、夏期には果形が乱れる空洞果や裂果等の障害果の発生が問題となっているため、環境制御技術（CO₂施用、ミスト噴霧）の導入による生産性向上技術の開発に取り組みました。

保温のため施設を密閉する冬期において、不足するCO₂を施用することで、果実

肥大が促進され、3割程度の増収となることが実証できました。また、高温乾燥となる時期のミスト噴霧によって果実肥大が良好となることに加え、裂果の発生が抑制されることがわかりました。

今後は環境制御による多収生産（40 t/10 a）に加え、果実糖度5%以上を保つことが可能となる栽培管理技術の開発を行います。（園芸研究部）

本研究は、JAあいち経済連、トヨハシ種苗(株)との共同研究により実施しました。

研究トピックス

農業用排水路における絶滅危惧種 ドジョウの環境・生態調査を実施

農業用排水路において、希少種のトウカイコガタスジシマドジョウ（環境省：絶滅危惧 I B類）の生息環境を保全・再生するため、環境調査と生態調査を行いました。成魚は流れのゆるやかな幹線排水路で生息し、かんがい期に魚道を通して支線排水路に侵入して繁殖することがわかりました。本種を保全するには、環境配慮工法による流速の抑制や魚道の設置などが必要です。（環境基盤研究部）



トウカイコガタスジシマドジョウと生態に配慮した魚道の例

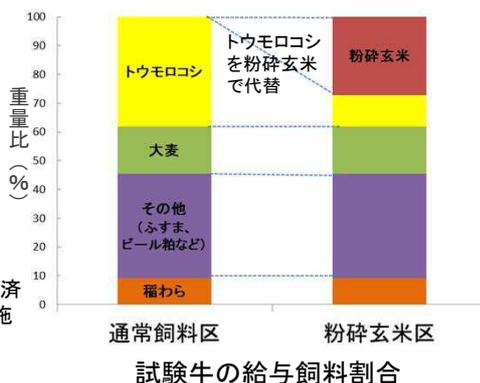
肥育牛用配合飼料中のトウモロコシの 7割は粉碎玄米で代替可能

現在、家畜の飼料となる穀類は大半を輸入に頼っているため、それらを国産の飼料用米で代替することができれば、①飼料価格の安定、②食料自給率の向上、③休耕田の有効活用などのメリットが期待できます。

飼料中のトウモロコシの7割を粉碎した国産玄米で代替し、黒毛和種去勢牛に与える試験を行ったところ、飼料の摂取量、発育、肉質などにおいて、通常の飼料を与えた場合と遜色ない成績が得られました。

（畜産研究部）

本研究はJAあいち経済連との共同研究で実施しました。



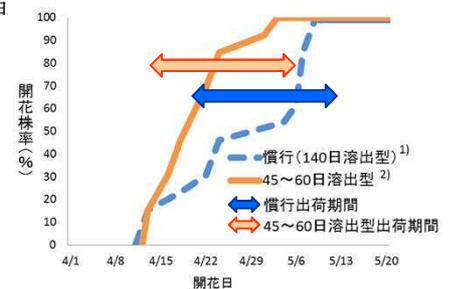
デンドロビウム「フォーマイチ1号」の 出荷期間を拡大する施肥方法

早生性の「フォーマイチ1号」の施肥方法を確立するため、緩効性肥料の種類を検討しました。溶出期間が45-60日の短い肥料を用いると、開花品質は慣行肥料と同等で、開花時期が揃うとともに早まります。今後、出荷期間のさらなる拡大に向け効果的な施肥方法の開発を目指します。

（園芸研究部）



「フォーマイチ1号」



- 1) 140日溶出型(13-11-13) 窒素量0.46g/株
- 2) 45-60日溶出型(8-8-8) 窒素量0.48g/株

緩効性肥料の種類と開花

ヤシ殻の畜舎敷料利用による悪臭低減

畜産の課題である悪臭への対策として、ヤシ殻外皮の粉碎物を使用した試験を行ったところ、吸水性が高く、悪臭を吸着する能力が優れていることがわかりました。畜舎の敷料（家畜のベッド）として利用すると、従来のオガクズに比べ悪臭の発生を防ぐことができます。

ヤシ殻外皮敷料の利用

（畜産研究部）



敷料利用時の吸水量及びアンモニア(NH₃)吸着量

資材	吸水量(L)	NH ₃ 吸着量(g)
ヤシ殻	276	1684
オガクズ	92	39

敷料 1 m³当たり

本研究は(株)KNKコーポレーションとの共同研究で実施しています。

研究短報第113号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>